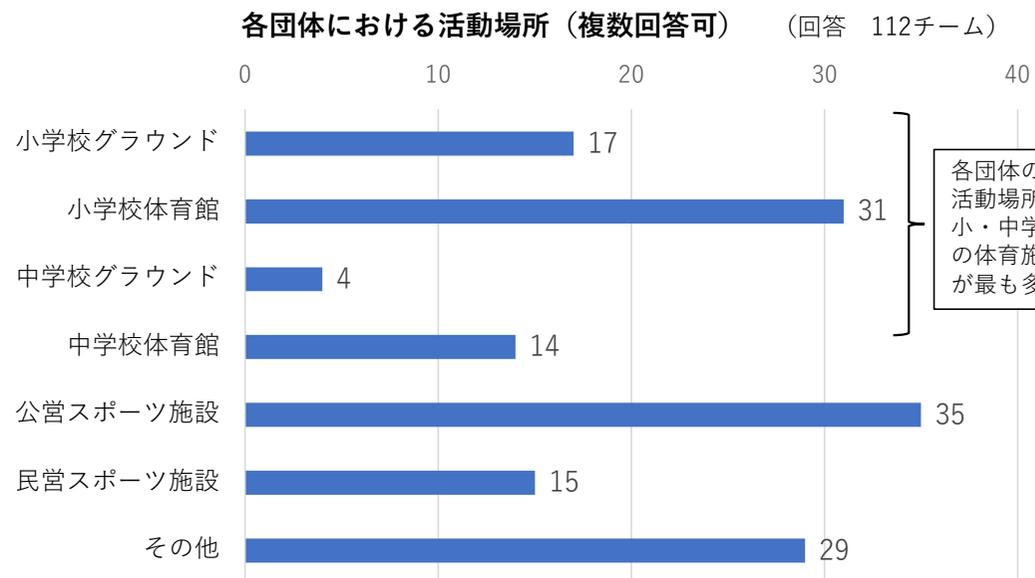
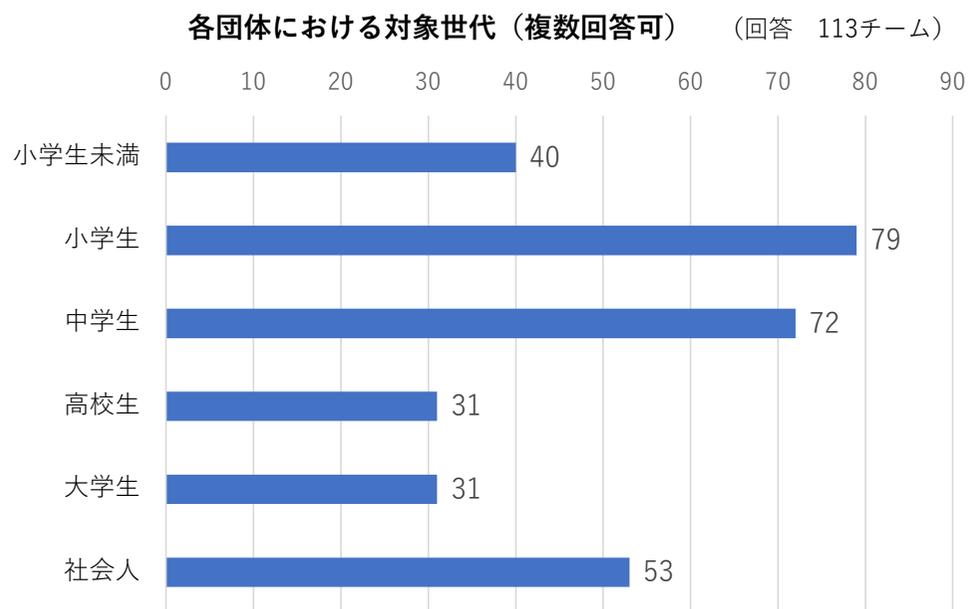


<調査結果>

1 地域スポーツ団体①

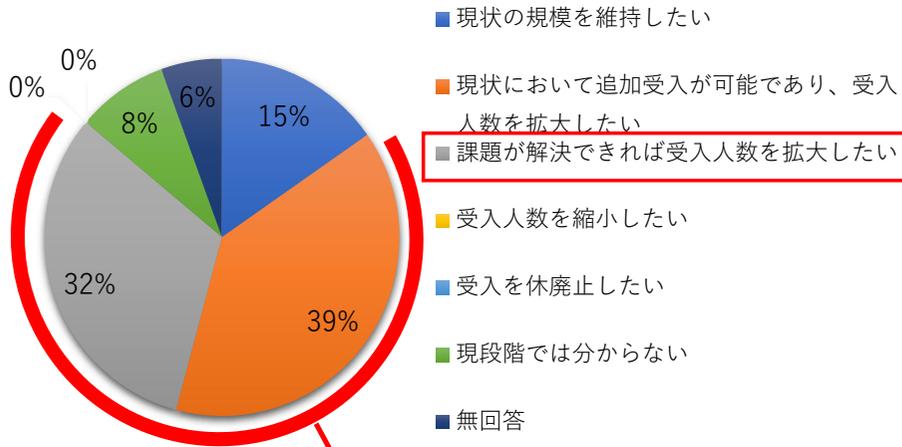
各団体における現在の活動状況



1 地域スポーツ団体②

中学生の受入に対する今後の意向（現在、中学生が所属しているチーム（72チーム））

中学生の受入規模の増減についての今後の意向



「追加受入可能」又は「課題が解決できれば受入拡大」との回答が全体の71%

「課題が解決できれば受入人数を拡大したい」と回答したチーム

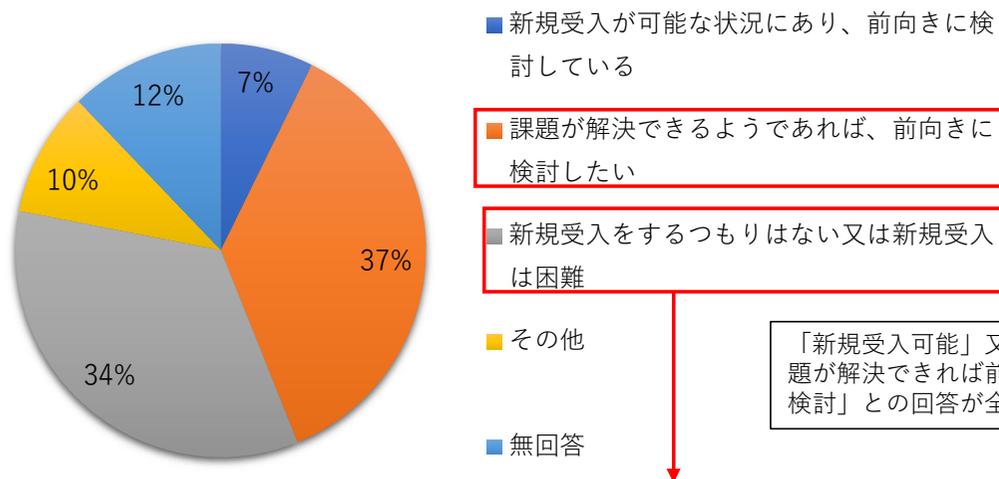
（23チーム）が受入拡大に向けて課題と思うこと（複数回答可）（回答 23チーム）



1 地域スポーツ団体③

中学生の受入に対する今後の意向（現在、中学生が所属していないチーム（41チーム））

中学生の新規受入について今後の意向



「課題が解決できるようであれば、前向きに検討したい」と回答したチーム(15チーム)が新規受入に向けて課題と思うこと（複数回答可）



「新規受入可能」又は「課題が解決できれば前向きに検討」との回答が全体44%

「新規受入をするつもりはない又は新規受入は困難」と回答したチーム(14チーム)がそう考える理由

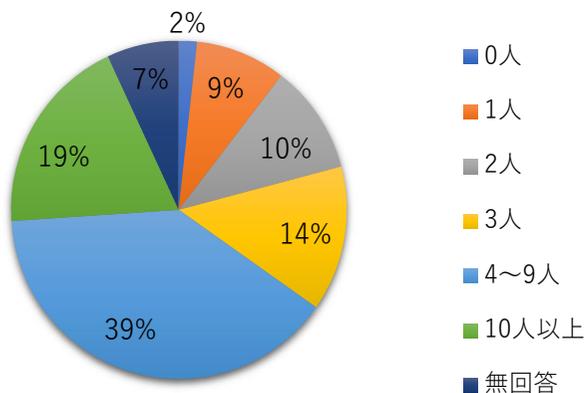
※総合型地域スポーツクラブは該当なし

- 競技団体
 - ・社会人の楽しみの練習会として実施しており、指導者がいない。
 - ・現在の会員が40～80代で構成されており、中学生を同時に対応することは困難であるため。
 - ・決まった曜日、日に練習をしていないため。
- スポーツ少年団
 - ・指導者は小学生を指導するだけで精一杯で、中学生を指導する時間的余裕がない。
 - ・小学生を対象としたチームであり、中学生を満足させる練習ができないと考えるため。

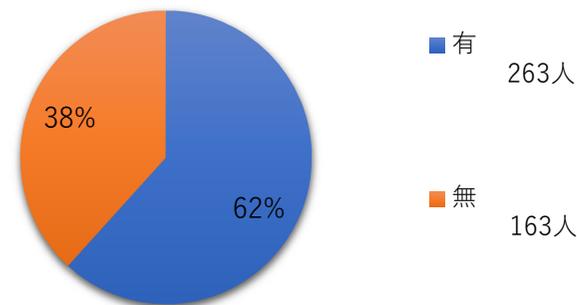
1 地域スポーツ団体④

各団体の指導者の現状

各団体における指導者の人数（回答 115チーム）



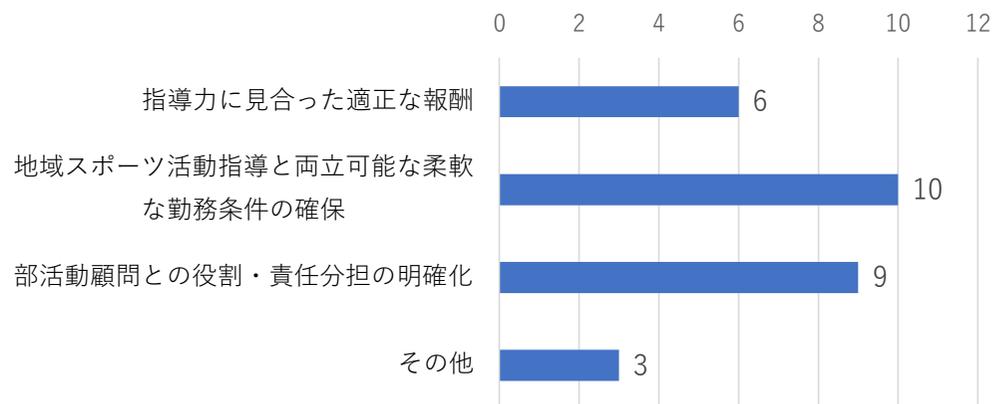
指導者における公認スポーツ指導者資格取得の状況



各団体の指導者の中学校部活動指導者としての従事状況

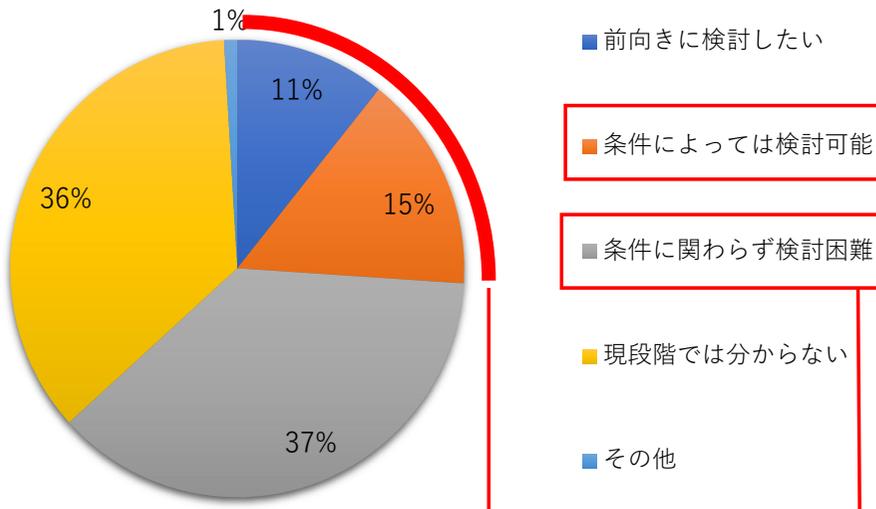
区分	回答	構成比(%)
従事している人数	25	9%
従事していない人数	262	91%
計	287	100%

現在部活動指導に従事されている指導者が部活動指導にあたって課題と感じていること(複数回答可)



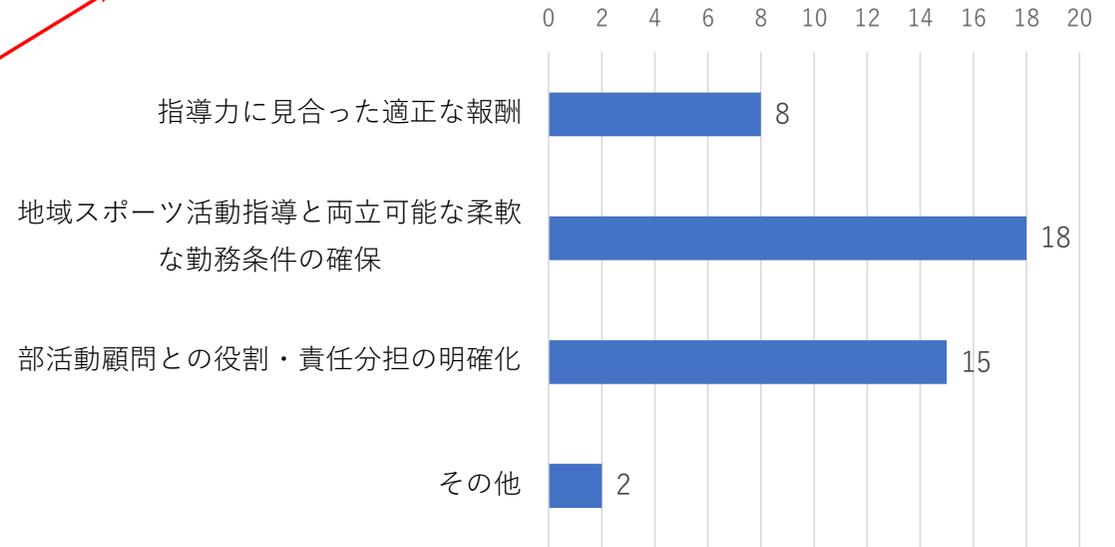
1 地域スポーツ団体⑤

現在中学校の部活動指導に従事されていない指導者の今後における部活動指導の意向（回答 215人）



「前向きに検討したい」又は「条件によっては検討可能」との回答は全体の26%

条件によっては検討可能と回答された指導者（33人）が従事するにあたって重視される主な条件（複数回答可）



条件に関わらず検討困難な理由 ※総合型地域スポーツクラブは該当なし

○競技団体

- ・ 時間確保が困難、仕事との両立が困難。
- ・ 高齢者であるため

○スポーツ少年団

- ・ 平日は仕事で時間が割けない。土日も現在の活動で時間が取れない。
- ・ 現状の少年団の活動だけでも指導者数が不足しているため。

1 地域スポーツ団体⑥

全般的な意見について（主なもの）

(1) 子ども達がスポーツに親しむことができる環境を確保するために必要なこと

- ・ 活動場所の確保
学校施設の積極的な開放、競技の性質に適した活動場所の確保、
行政区ごとに活動拠点を作ってはどうか など
- ・ 指導者の量・質の確保
質確保のための指導者育成、ボランティア前提では定着しない など
- ・ 子ども達がスポーツに楽しめる環境づくり
学校の枠や勝利結果主義にとらわれないこと、多様なスポーツ体験の提供。
楽しくなければ続かないため誰もが入りやすい環境を作ること
中学校だけターゲットを絞るのではなく、小学校から様々なスポーツに親しむ機会
を確保することが重要
「子ども達を地域社会が育てる」意識を共有できるための広報 など

(3) 部活動の地域移行を地域のスポーツ振興につなげるためのポイント

- ・ 学校の働き方改善により地域活動に従事したいと思う教員を増やすこと
- ・ 中学生と地域のスポーツチームやスポーツ経験者との交流の機会を増やす
- ・ 地域の体育振興会等との連携を図ること、地域スポーツ・学校・民間施設が一体となつた協力体制
- ・ 各地域の協力と横（指導者・各地域間）の連絡・連携
- ・ 地域住民の協力・コミュニケーションの場所づくり など
- ・ 部活動情報を地域へ広報し、地域住民の興味を高める。部活動や地域を活気づけるコミュニティとなればよい。
- ・ 小学校年代から中学校年代への一貫した育成（指導者の質の向上含む）

(2) 地域移行を進めるに当たって留意すべきこと

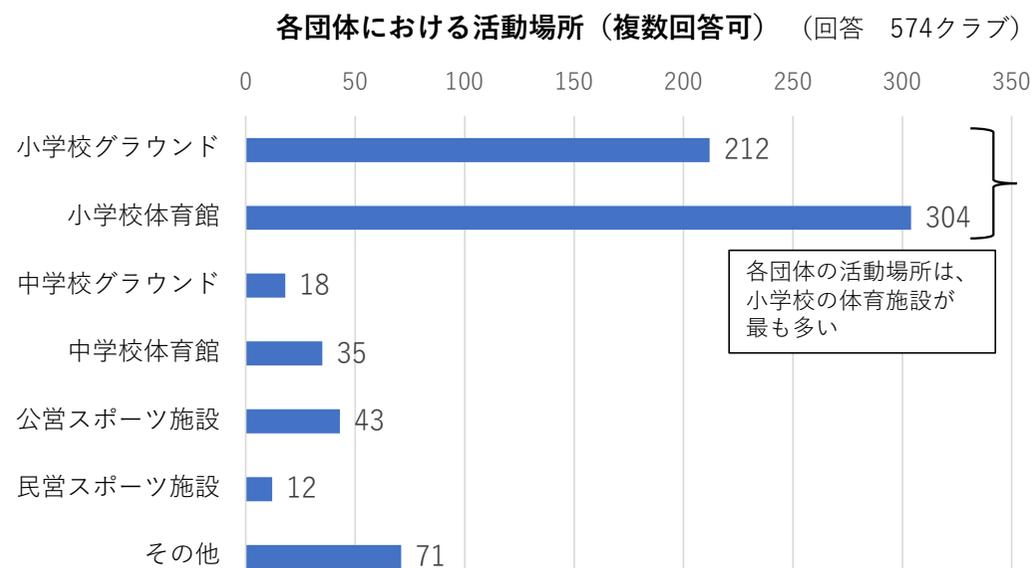
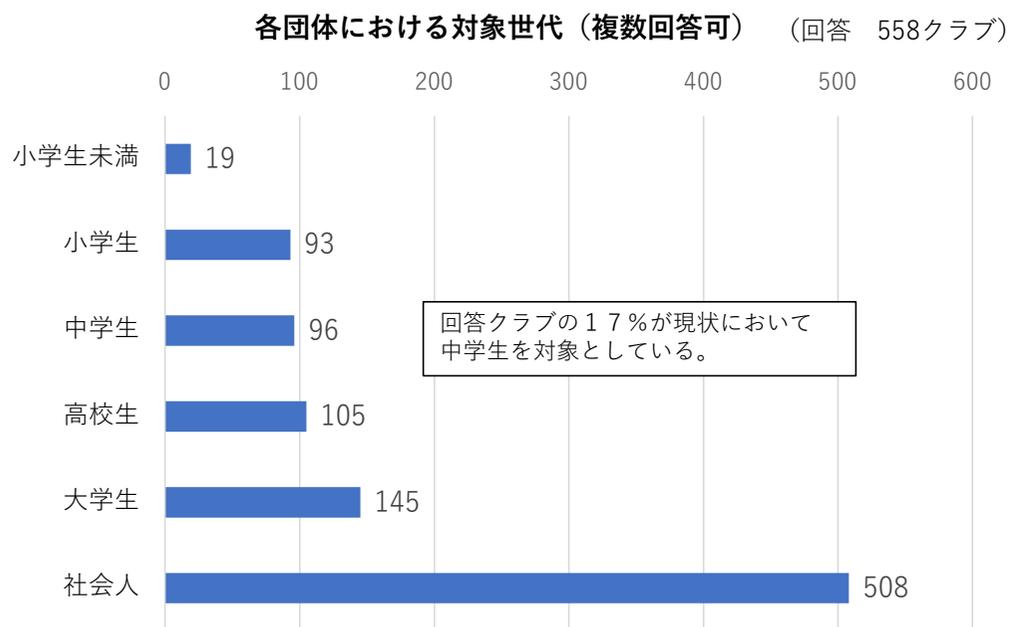
- ・ 指導に関して
指導者の立場向上・報酬の適正化（ボランティア前提では成り立たない）、
質の確保（行き過ぎた指導が行われないこと）、
現在指導している中学校の先生の意見を十分くみ上げること など
- ・ 学校や教員との連携、密な関係づくり
- ・ 地域クラブ活動の参加費の負担の明確化
- ・ 保護者の理解・協力を得ること
専門的なフォロー体制の構築（指導、コンディショニング、応急処置等）
- ・ その他
全ての部活動地域移行を同じタイミングでしないと納得は得られない、
地域移行の具体的なプロセスが見えない、責任の所在の明確化 など

(4) その他意見

- ・ 取りまとめ役や地域サポーター的な人が必要
- ・ 前向きに検討したいが、サラリーマンなら平日は困難。休日だけでも可能なのか。
- ・ 地域クラブへの移行を進めるためにも、チームの運営を勝利至上主義ではなく、子ども達の成長に合わせた運営を図るべき
- ・ まだまだ状況が分かりにくい、何故部活動の地域移行が必要なのか、多くの方に理解いただく必要がある。
- ・ 部活動はスポーツだけを学ぶ場ではない。また指導者も喜びや成長を楽しむ場でもあり、地域移行によりそのような場面がなくならないことを考えてほしい。

2 体育振興会①

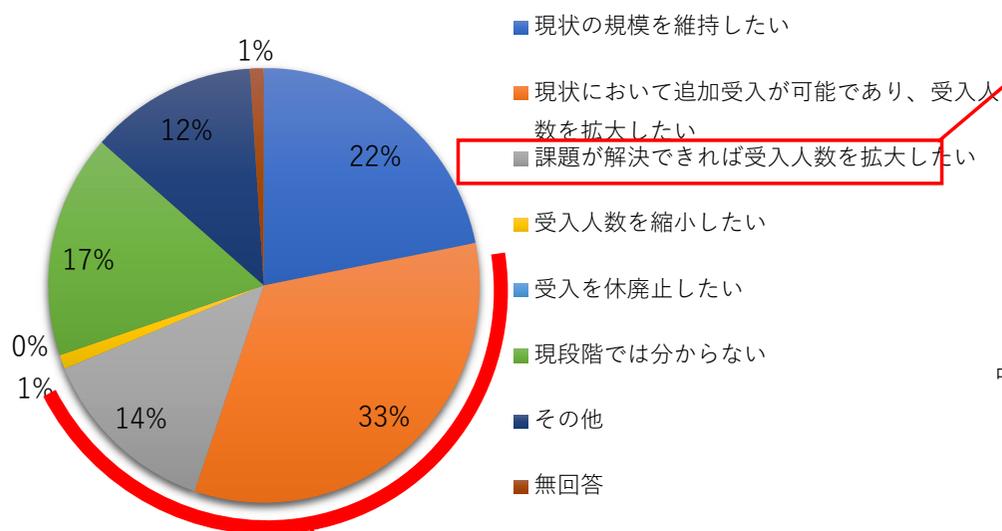
各団体における現在の活動状況



2 体育振興会②

中学生の受入に対する今後の意向（現在、中学生が所属しているクラブ（96クラブ））

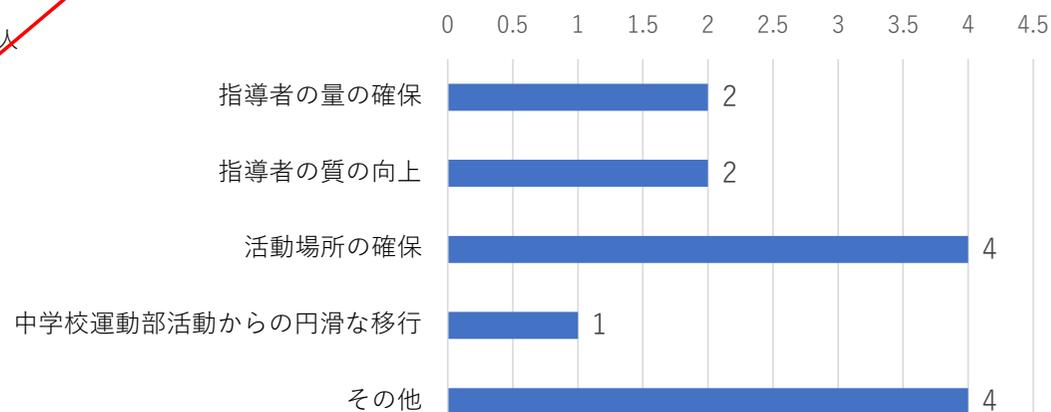
中学生の受入規模の増減についての今後の意向



「追加受入可能」又は「課題が解決できれば受入拡大」との回答が全体の47%

「課題が解決できれば受入人数を拡大したい」と回答したクラブ

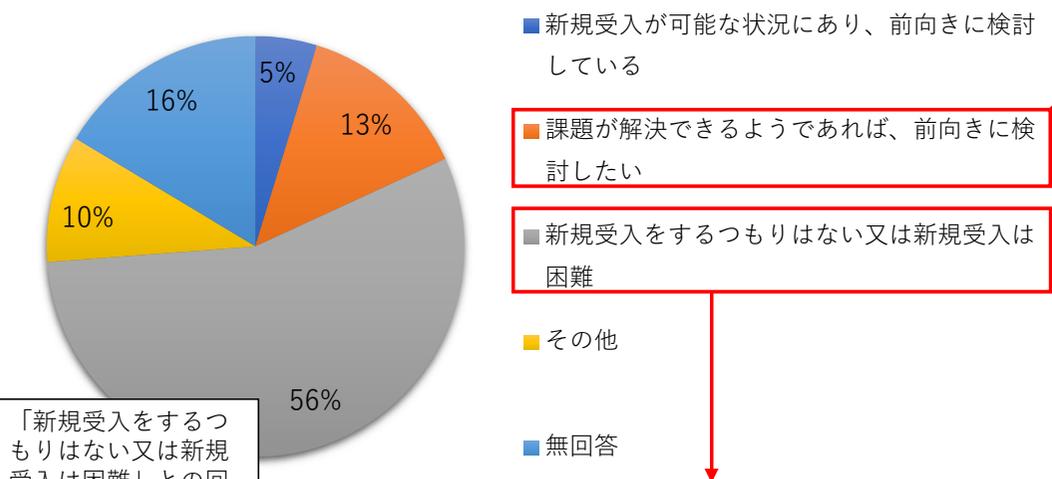
（13クラブ）が受入拡大に向けて課題と思うこと（複数回答可）（回答 11クラブ）



2 体育振興会③

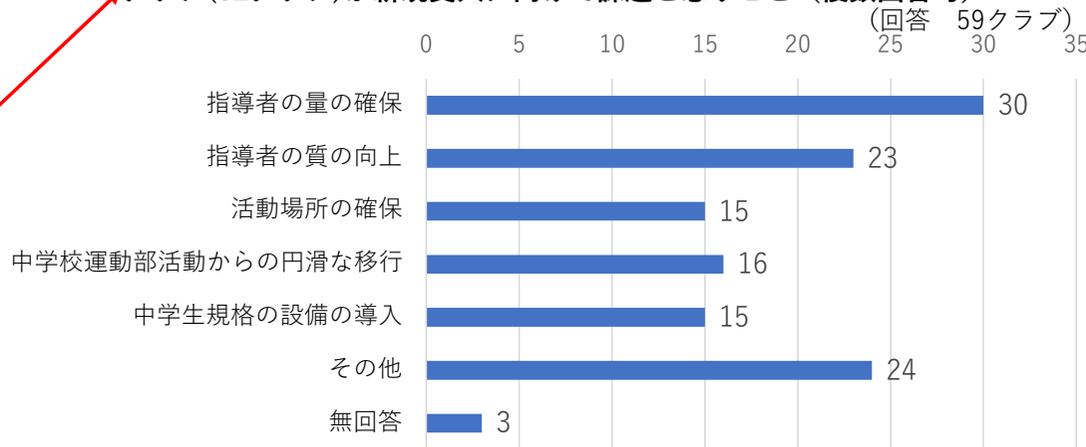
中学生の受入に対する今後の意向（現在、中学生が所属していないクラブ（462クラブ））

中学生の新規受入について今後の意向



「新規受入をするつもりはない又は新規受入は困難」との回答が全体56%

「課題が解決できるのであれば、前向きに検討したい」と回答したクラブ(62クラブ)が新規受入に向けて課題と思うこと（複数回答可）



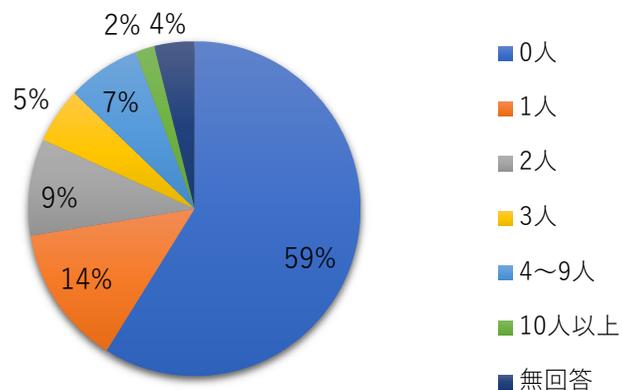
「新規受入をするつもりはない又は新規受入は困難」と回答したクラブ(257クラブ)がそう考える理由

- ・指導者がいないため
- ・社会人限定で活動しているため
- ・中学生と社会人では体力・技能レベル差が大きい
- ・高齢者のレクリエーション、憩いの場であるため
- ・活動が月に1～2回程度で、かつ1回の活動時間も長くないため
- ・所属人数が少数（4～5名）しかいないため。管理できる人数に限度があり、中学生まで広げることは難しいため。
- ・中学校の運動部活動の種目にはないため
- ・ネットの高さ、ポールコートの高さなどが異なるため

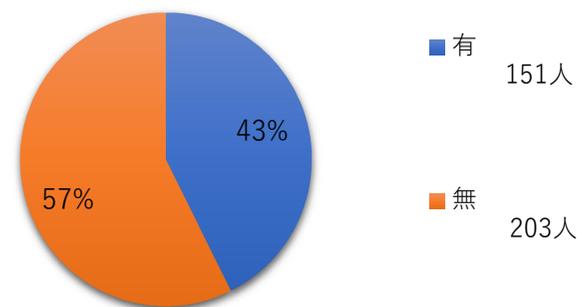
2 体育振興会④

各団体の指導者の現状

各団体における指導者の人数（回答 591クラブ）



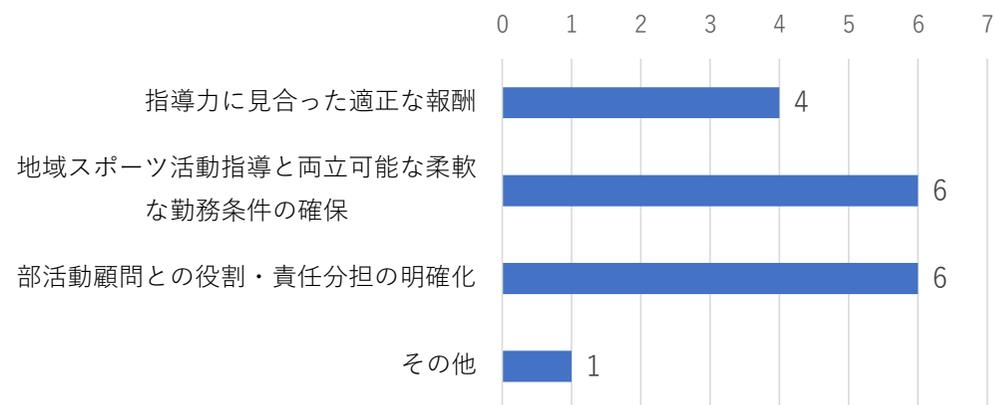
指導者における公認スポーツ指導者資格取得の状況



各団体の指導者の中学校部活動指導者としての従事状況

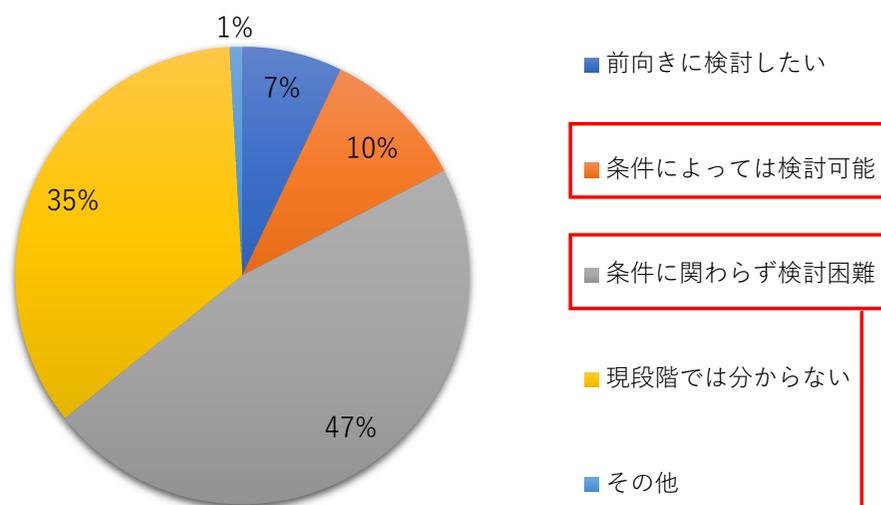
区分	回答	構成比 (%)
従事している人数	13	5%
従事していない人数	255	95%
計	268	100%

現在部活動指導に従事されている指導者が部活動指導にあたって課題と感じていること(複数回答可)



2 体育振興会⑤

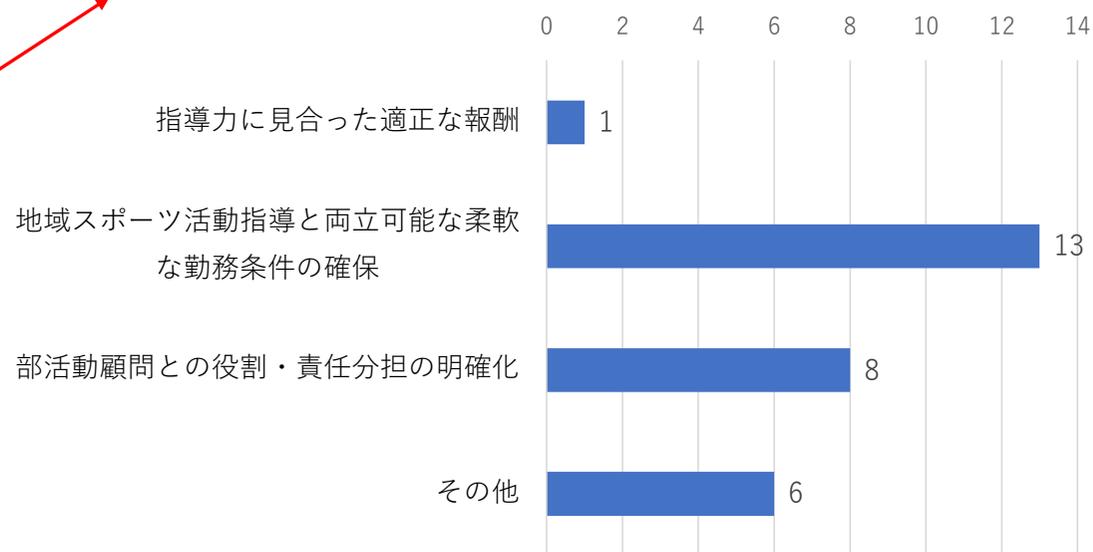
現在中学校の部活動指導に従事されていない指導者
(255人)の今後における部活動指導の意向



条件に関わらず検討困難な理由

- ・仕事との両立が困難、時間的に困難
- ・高齢のため
- ・指導力不足、資格を持っていない
- ・中学生の指導は責任が重い
- ・現在のクラブでの指導で手一杯

条件によっては検討可能と回答された指導者(23人)が
従事するにあたって重視される主な条件(複数回答可)



2 体育振興会⑥

全般的な意見について（主なもの）

(1) 子ども達がスポーツに親しむことができる環境を確保するために必要なこと

- ・学区にこだわらず、子供のレベルに合わせたクラブを選択できる環境づくりが必要。
- ・各スポーツ施設の充実と各行政区を超えた受け入れ、良い指導者の確保。子ども達がスポーツをしたい時、楽しいと思えることが望ましい。
- ・グランドゴルフは気軽にできるスポーツであり、運動が苦手な生徒がスポーツを楽しむ経験ができるものであると考える。
- ・中学校の運動場や体育館を地域スポーツに解放する。
- ・学校での部活動で十分。
- ・方向性が逆行するかもしれないが、部活指導者を確保することができるのであれば、現行のクラブ活動（部活動）を継続する事が望ましい。

(3) 部活動の地域移行を地域のスポーツ振興につなげるためのポイント

- ・場所や施設の確保とともに利用調整するコーディネータ的なキーマンが必要だと考える。
- ・部活動の地域移向が部活の外部移管になる事に留まらず、地域スポーツクラブとの接点を増やす活動を取り入れる。
- ・これまでの中学校の運動部活動での目標・目的と体振クラブでの目標・目的に相違があるため、共通目標、目的が難しい。
- ・部活動も一つの学校だけでは成り立たなくなっているが、体育振興会のスポーツ活動への参加者の減少問題もあり、これから更に顕在化すると思う。「部活動を指導しないといけない」と思うとハードルが高いが、世代を超えて一緒にスポーツを楽しむ場としてなら地域スポーツ団体はその受け皿になれる可能性があると思う。

(2) 地域移行を進めるに当たって留意すべきこと

- ・競技レベルに差があると参加出来ない生徒が出てくるため、レベルに合ったクラブを自由に選べる工夫が必要。一つのスポーツだけでなく、色々な種目に挑めるような環境作り。
- ・中学生の自主性を育てるように留意が必要。厳しい練習ばかりでやらされている感が強くなりすぎないように。
- ・部費に当たる費用はどの様に考慮するのか。費用がかさむ種目もあるのではないかな。
- ・公式戦に出場する際、どのような枠組みで参加となるのか。各スポーツ連盟、協会での取り組みが問われる。
- ・学校の負担は減るかもしれないが、地域の負担が増えるため難しい。地域の間人も平日は働いており、休日は自身の時間を取る必要がある。
- ・地域の理解や学校との情報共有
- ・子供達と指導者の信頼関係が大切。また、思春期の発達段階をしっかりと理解できる指導者が望ましい。そのような講座があればいいと思う。
- ・地域差が少ないようにしていただきたい。

(4) その他意見

- ・地域が各学校とのコミュニケーションを取りつつ、やりがいがある部活ができるように子供達と笑顔で楽しく活動ができればいいと思います。仕事の都合がつけば、指導に協力したいと思う。
- ・地域の生徒達を地域で育てることが大切。
- ・地域のスポーツ振興は現在高齢化してきており、30～40代、50代へと引き継ぐ事ですら難しくなってきたり、縮少をしていく部もあると思います。その年代をどう取り込んでいくかを考えることも必要。
- ・京都市の体育振興会の多くは地域密着型で、競技性の高い指導とは少し違うと思う。体振役員は地域の事業で手がいっぱいになっており、とても時間的に余裕がない。体振役員に中学生指導にも関わりたい方がいれば、体振活動の中の役割でなく、別組織で運営すべきであると考えます。
- ・言葉では「地域への移行」が気になる。現在の中学校部活動への地域関与を積極的に行うというほうが現実に即しているのではないかなと思う。

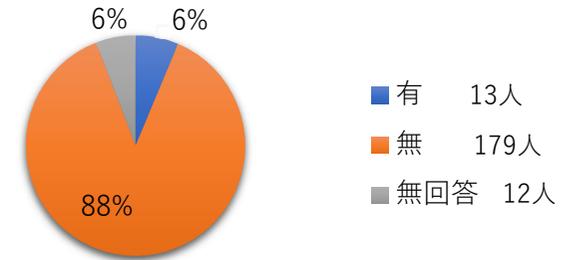
3 京都市スポーツ推進指導員①

中学校部活動指導者としての従事状況

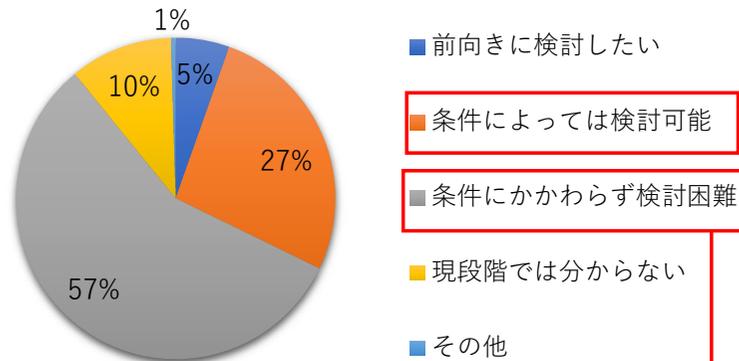
区分	回答	構成比(%)
従事している	1	0.5%
従事していない	202	99%
無回答	1	0.5%
計	204	100%

公認スポーツ指導者資格の有無

公認スポーツ指導者資格の有無 (回答 204人)



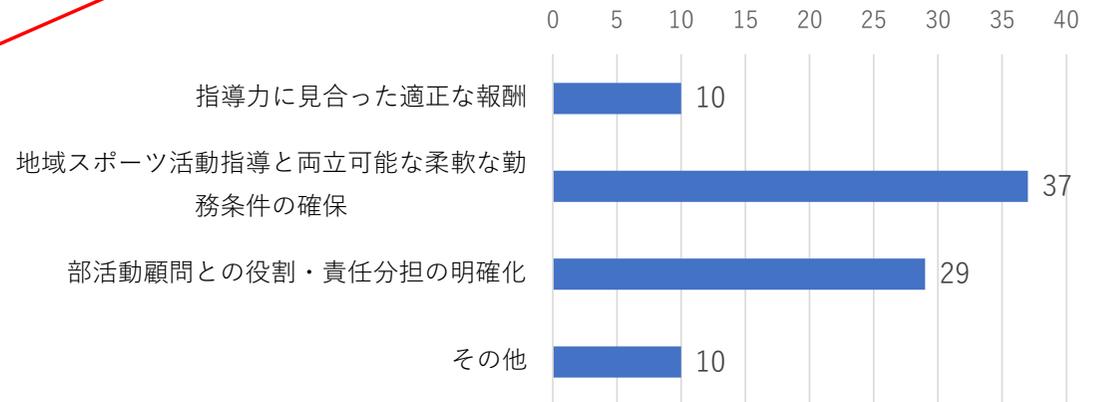
現在中学校部活動指導に従事されていない指導員 (202人) の今後における部活動指導の意向



条件に関わらず検討困難な理由

- ・ 高齢のため。 ・ 指導できる技術・知識が無い。
- ・ 仕事の他に体育振興会、民生児童委員、スポーツ推進指導員としての活動しており、忙殺されている

条件によっては検討可能と回答した指導者(54人)が 今後従事するにあたって重視する主な条件 (複数回答可) (回答 49人)



3 京都市スポーツ推進指導員②

全般的な意見について（主なもの）

(1) 子ども達がスポーツに親しむことができる環境を確保するために必要なこと

- ・ 活動場所の確保
学校施設の積極的な開放、安全に運動できる場所
ボール遊びが禁止の公園が多すぎる
- ・ 指導者の量・質の確保
外部指導者の充実、そのための養成
- ・ その他
勝負にこだわらない、楽しむことを優先できる環境づくり
気軽にスポーツができるよう敷居を低くする

(3) 部活動の地域移行を地域のスポーツ振興につなげるためのポイント

- ・ 部活動を卒業した後、地元もしくは進学先のスポーツ団体（体育振興会やスポーツクラブ）で一定のポジションに就ける環境があればいい。
- ・ 地域との関わりを当たり前であると感じていければ、大人になった時にも自然と地域スポーツに関わっていけると思う。
- ・ 地域活動（自治会への加入、地域行事への参加など）との結びつきを強める
- ・ 体育振興会との連携
- ・ 部活動の地域移行と地域スポーツ振興では少し目的が違う気がするのでイメージが浮かばない。

(2) 地域移行を進めるに当たって留意すべきこと

- ・ 指導に関して
指導者はボランティアでは成り立たない
楽しくするのか、上を目指すのかで指導者が変わってくる
子ども発達についての知識の習得、教育者としての資質
- ・ 学校、地域、保護者のコミュニケーション、連携
- ・ 体育振興会が地域に強いので連携してはどうか
- ・ その他
責任の所在の明確化 など

(4) その他意見

- ・ 子供達が楽しかったと思えること。指導者、管理者、保護者等の大人達がきちんとコミュニケーションを取っていく事。子供達が地域で育ってよかったと思えること。
- ・ 部活動の地域クラブの移行の担い手を市の指導員に期待されることは適切とは思わない。各種競技団体の方が期待できると考える。
- ・ スポーツ推進指導員も毎年減っている。定年延長ではなく、待遇面でも考えてほしい。
- ・ 地域によって不公平が生じないようにしてほしい。